

京田辺市産業振興ビジョン策定業務基礎調査報告書（概要版）

1. 京田辺市産業の現状

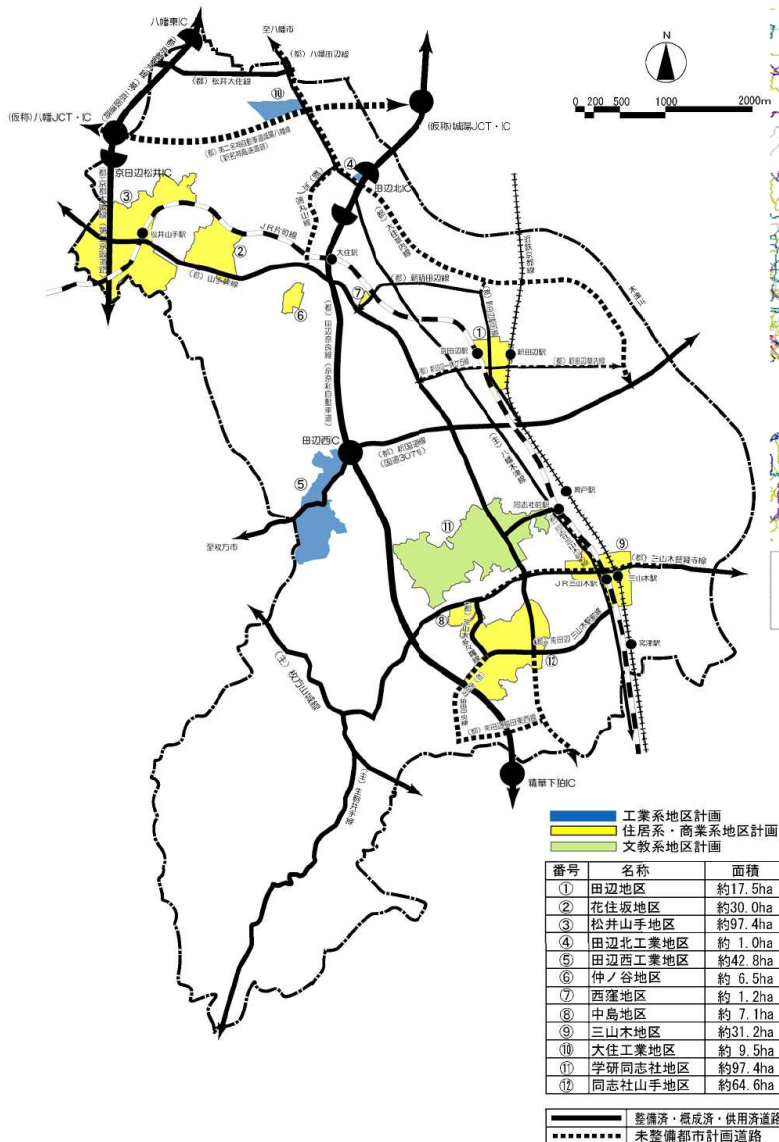
(1) 土地利用の概況

- 昭和 45 年頃から土地区画整理事業などによる住宅地や工業地などの計画的な市街地整備が進められてきた。また、良好なまちなみの形成と環境保全を図るため、市街地開発が行われた多くの地区で地区計画を定めてきた。

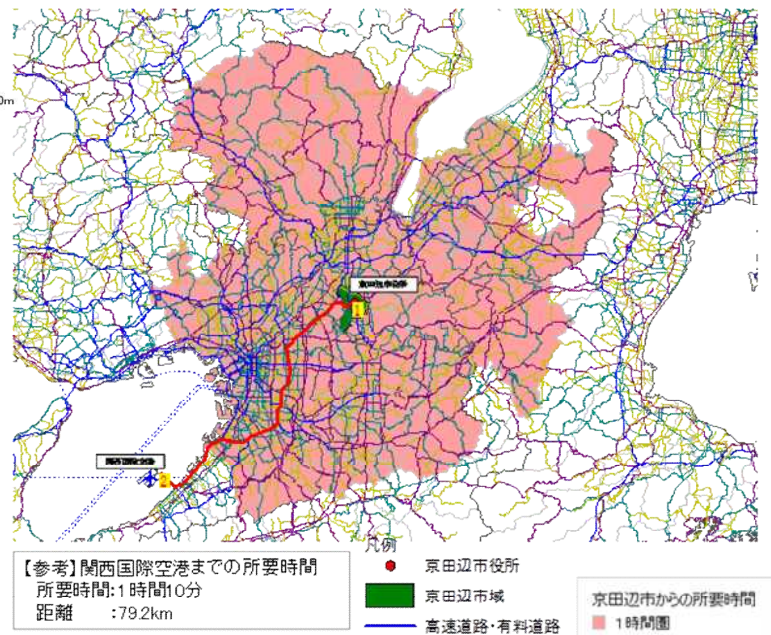
(2) 交通ネットワークの概況

- 京田辺市は、京都と奈良を結ぶ近鉄京都線、京都南部と大阪を結ぶ JR 片町線（学研都市線）の鉄道が通り、市内中心部からは京都市内に約 25 分、大阪市内に約 45 分、奈良市内に約 20 分と、各都市へのアクセスが良好な条件を備えている。
- また、本市を南北に縦断する京奈和自動車道に加え、第二京阪道路が開通し、主要都市や関西国際空港への時間的距離の短縮化が図られている。今後、新名神高速道路の建設が促進されることにより、交通結節機能の一層の向上が期待される。

【地区計画位置図】



【京田辺市から1時間圏(自動車)】

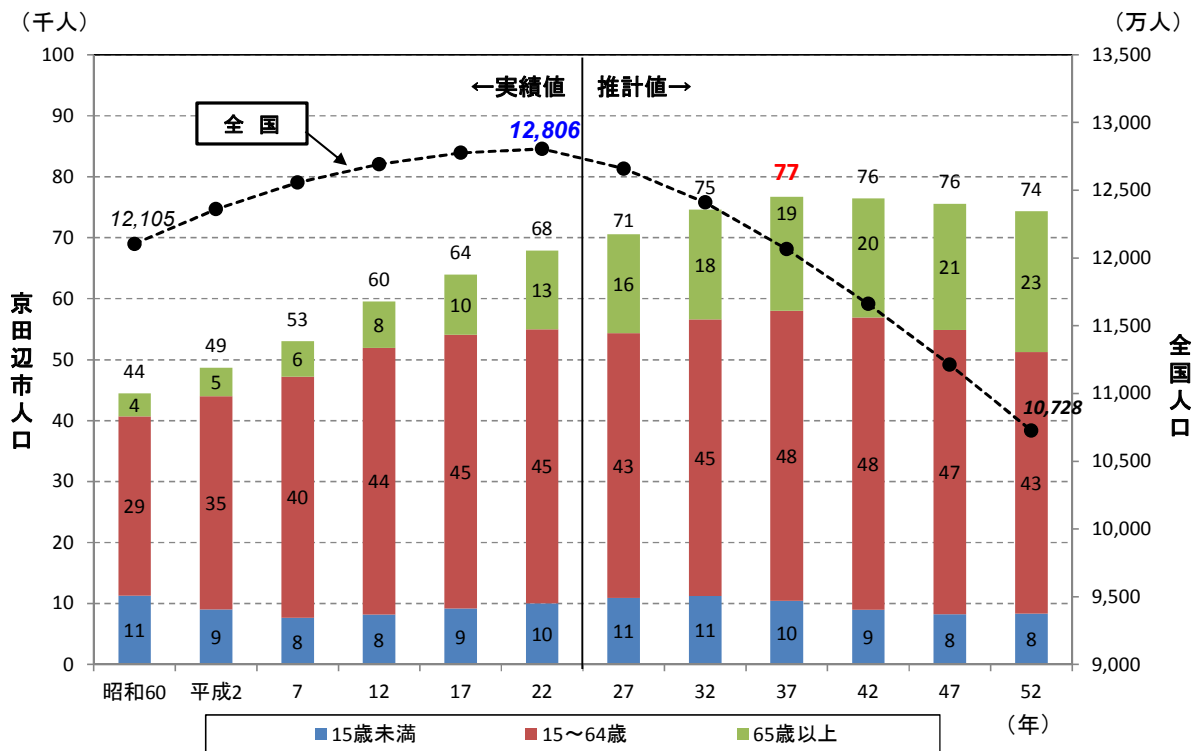


(資料) 京田辺市「京田辺市都市計画マスタープラン」(平成 23 年 4 月)

(3) 人口の概況

- 全国においては、平成 22 年頃をピークに、既に人口減少局面に移行しているが、京田辺市の人口は、依然として増加傾向で推移しており、本市の推計によれば、平成 37 年頃まで増加するものと見込まれている。

【総人口の推移と見通し】



注：1) 実績値(昭和60～平成22年)は総務省「国勢調査」、推計値(全国)は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」の中位推計、推計値(京田辺市)は「京田辺市将来人口推計(平成26年3月)」による。

注：2) 総数には年齢不詳を含まない。

(資料) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成24年1月推計)」
京田辺市「京田辺市将来人口推計(平成26年3月)」

- 関西の市(111市)における人口増加率、世帯増加率の上位5位までをみると、京田辺市は、人口増加率で3位、世帯増加率で5位となっており、高い増加率を維持している状況が確認できる。

【人口・世帯の増減率比較(市別・関西の上位5位)】

順位	人口増加率		世帯増加率	
	市名	増加率(%)	市名	増加率(%)
1	草津市	4.2	草津市	7.7
2	木津川市	3.4	栗東市	6.7
3	京田辺市	3.3	木津川市	6.4
4	箕面市	3.1	香芝市	5.8
5	栗東市	3.0	京田辺市	5.4

注：1) 人口、世帯の増減率は、住民基本台帳による平成22年から平成25年にかけての増減率による。

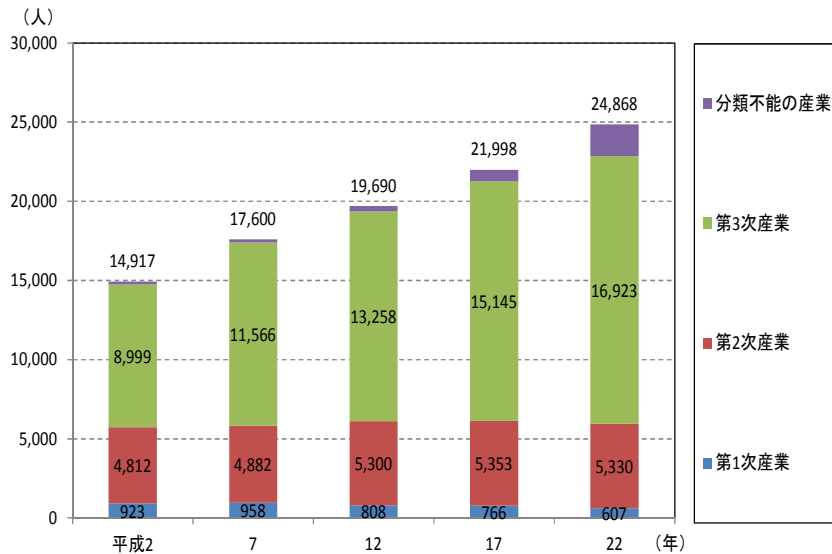
注：2) 関西は「大阪府、京都府、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県」としている。

(資料) 東洋経済新報社「都市データバック(2014年版)」

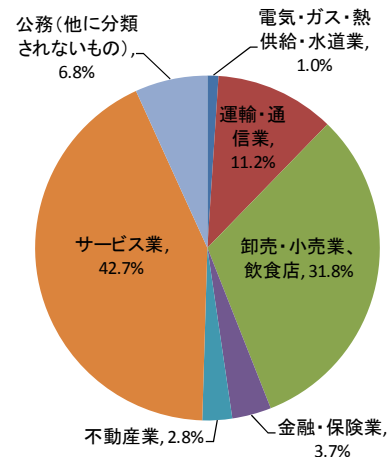
(4) 労働力人口の概況

- 京田辺市を従業地とする産業別就業者数をみると、増加傾向で推移、特に第3次産業の増加が大きくなっている。第3次産業の内訳をみると、「卸売・小売、飲食店」と「サービス業」で、7割超の人が就業している。

【産業別 15 歳以上就業者数の推移(従業地による)】



【第3次産業の産業別15歳以上就業者構成比(平成22年)】



注: 1) 「運輸・通信業」は、「運輸業、郵便業」と「情報通信業」の合計。

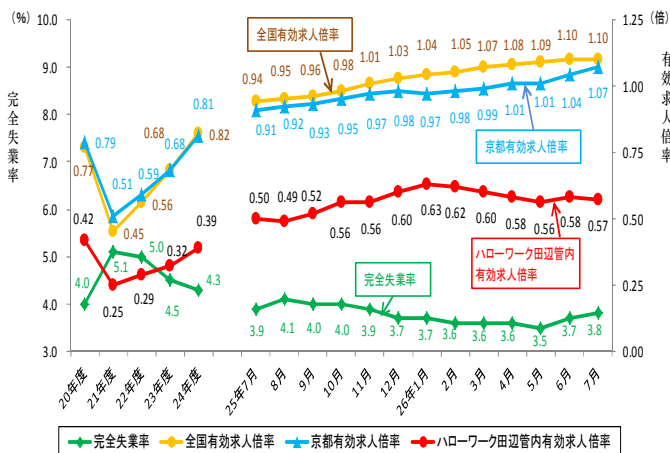
「卸売・小売業、飲食店」は、「卸売業、小売業」と「宿泊業、飲食サービス業」の合計

注: 2) 「サービス業」は、「学術研究、専門・技術サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「教育、学習支援業」、「医療、福祉」、「複合サービス事業」、「サービス業(他に分類されないもの)」の合計

(資料) 総務省「国勢調査」

- ハローワーク田辺の資料によると、田辺管内の有効求人倍率は、全国や京都府に比べ低い水準で推移している。京田辺市については、有効求人倍率は0.94(平成26年7月)と、ハローワーク田辺管内では高い水準にあるが、充足率でみると2割程度という状況にあり、需給のミスマッチがみられる状況にある。

【完全失業率と有効求人倍率の推移】



【ハローワーク田辺管内の住所別職業紹介状況等】

	① 新規 求人数	② 月間 有効 求人数	③ 新規 求職 申込件数	④ 月間 有効 求職者数	⑤ 充足数	⑥ 新規 求人倍率 (①/③)	⑦ 有効 求人倍率 (②/④)	⑧ 充足率 (⑤/①)
京田辺市	377	943	188	998	81	2.01	0.94	21.5%
井手町	48	118	48	164	15	1.00	0.72	31.3%
精華町	159	344	125	566	19	1.27	0.61	11.9%
木津川市	92	372	296	1299	54	0.31	0.29	58.7%
笠置町	0	5	5	30	1	0.00	0.17	
和束町	11	38	16	76	2	0.69	0.50	18.2%
南山城村	0	7	9	44	1	0.00	0.16	
総計	687	1827	687	3177	173	1.00	0.58	25.2%

注: 1) 充足数は、有効求人が安定所の紹介により求職者と結合した件数をいう。

注: 2) 充足率は求人数に対する充足された求人の割合をいい、「充足数」を「新規求人数」で除して算出。

注: 3) 田辺管内は京田辺市、井手町、精華町、木津川市、笠置町、和束町、南山城村

(資料) 京都労働局「ハローワーク田辺の雇用失業情勢」(平成26年7月)

(5) 人口流動の概況

- 他市町村からの、京田辺市への通勤・通学の流動をみると、通勤では京都市、城陽市、宇治市など京都府下の近隣地域や枚方市からの通勤者が多く、通学では京都市、大阪市などからの通学者が多くなっている。京田辺市から他市町村への通勤・通学の流動では、通勤では京都市、大阪市への通勤が多く、特に大阪府合計でみた場合、京田辺市へ通勤する人が3,300人程度であるのに対して、京田辺市からの通勤は6,500人程度と、京田辺市からの通勤者数が京田辺市への通勤者数の倍近くになっている。
- 大阪市や京都市との交通利便性が高いこともあり、通勤では、他都市への流出が多く、一方、通学では、大学があることもあり、他市町村からの流入が、流出の3倍となっている。

【他市町村から本市への通勤・通学流動】

①通勤		従業者数 (人)	構成比	②通学		通学者数 (人)	構成比
京田辺市で従業者(総数)		24,868		京田辺市で通学者(総数)		14,480	
うち京田辺市に常住している従業者		10,030		うち京田辺市に常住している通学者		4,399	
うち他市町村に常住している従業者		13,272	100.0%	うち他市町村に常住している通学者		9,020	100.0%
	(1位) 京都市	1,680	12.7%		(1位) 京都市	1,283	14.2%
	(2位) 城陽市	1,632	12.3%		(2位) 大阪市	739	8.2%
	(3位) 枚方市	1,535	11.6%		(3位) 城陽市	417	4.6%
	(4位) 宇治市	1,125	8.5%		(4位) 奈良市	404	4.5%
	(5位) 八幡市	961	7.2%		(5位) 枚方市	357	4.0%
	(6位) 精華町	899	6.8%		(6位) 宇治市	318	3.5%
	(7位) 木津川市	887	6.7%		(7位) 神戸市	283	3.1%
	(8位) 奈良市	652	4.9%		(8位) 大津市	239	2.6%
	(9位) 大阪市	441	3.3%		(9位) 東大阪市	214	2.4%
	(10位) 井手町	298	2.2%		(10位) 堺市	210	2.3%
	(11位) 宇治田原町	220	1.7%		(11位) 木津川市	194	2.2%
	(12位) 大津市	187	1.4%		(12位) 高槻市	189	2.1%
	(13位) 交野市	177	1.3%		(13位) 生駒市	166	1.8%
	(14位) 寝屋川市	148	1.1%		(14位) 吹田市	159	1.8%
	(15位) 生駒市	146	1.1%		(15位) 精華町	157	1.7%
参考	京都府計(京田辺市を除く)	8,138	61.3%	参考	京都府計(京田辺市を除く)	2,731	30.3%
参考	大阪府計	3,315	25.0%	参考	大阪府計	3,235	35.9%

注：1) 順位は人数順

注：2) 総数は従業地「不詳」を含む。

(資料) 総務省「国勢調査報告」(平成22年)

【本市から他市町村への通勤・通学流動】

①通勤		従業者数 (人)	構成比	②通学		通学者数 (人)	構成比
京田辺市に常住する就業者(総数)		28,826		京田辺市に常住する通学者(総数)		8,115	
うち京田辺市で従業者		10,030		うち京田辺市に通学する者		4,399	
うち他市町村で従業者		18,143	100.0%	うち他市町村に通学する者		2,994	100.0%
	(1位) 京都市	3,724	20.5%		(1位) 京都市	969	32.4%
	(2位) 大阪市	3,401	18.7%		(2位) 木津川市	205	6.8%
	(3位) 枚方市	1,474	8.1%		(3位) 宇治市	178	5.9%
	(4位) 八幡市	1,073	5.9%		(4位) 城陽市	168	5.6%
	(5位) 城陽市	1,006	5.5%		(5位) 大阪市	158	5.3%
	(6位) 宇治市	1,004	5.5%		(6位) 枚方市	153	5.1%
	(7位) 久御山町	602	3.3%		(7位) 奈良市	150	5.0%
	(8位) 木津川市	566	3.1%		(8位) 久御山町	59	2.0%
	(9位) 奈良市	492	2.7%		(9位) 精華町	54	1.8%
	(10位) 精華町	418	2.3%		(10位) 大東市	52	1.7%
	(11位) 宇治田原町	351	1.9%		(11位) 寝屋川市	50	1.7%
	(12位) 大東市	264	1.5%		(12位) 東大阪市	49	1.6%
	(13位) 井手町	244	1.3%		(13位) 吹田市	47	1.6%
	(14位) 東大阪市	225	1.2%		(14位) 草津市	43	1.4%
	(15位) 門真市	222	1.2%		(15位) 八幡市	39	1.3%
参考	京都府計(京田辺市を除く)	9,233	50.9%	参考	京都府計(京田辺市を除く)	1,693	56.5%
参考	大阪府計	6,556	36.1%	参考	大阪府計	599	20.0%

注：1) 順位は人数順

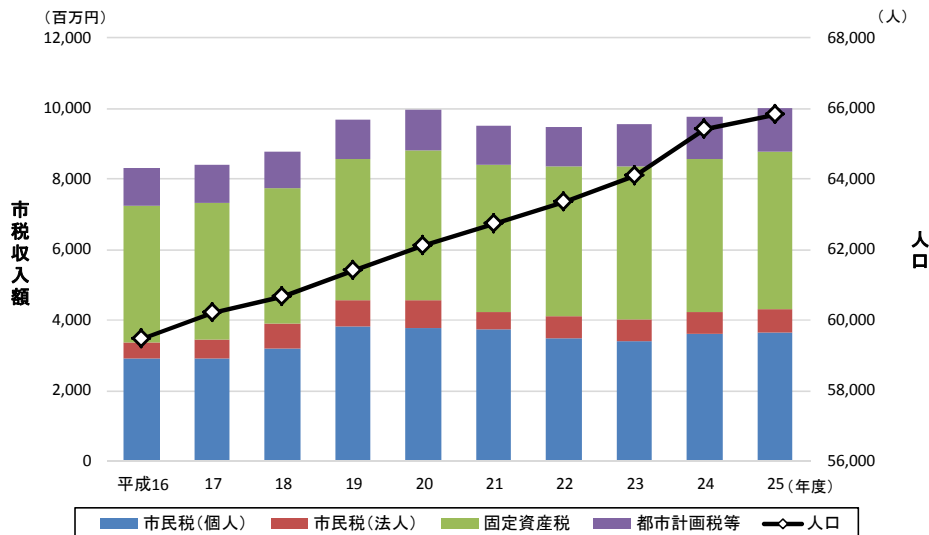
注：2) 総数は従業地「不詳」を含む。

(資料) 総務省「国勢調査報告」(平成22年)

(6) 市財政の概況

- 過去 10 年間の市税収入をみると、固定資産税は比較的順調に推移している一方、市民税（個人）については、平成 19 年度以降は人口増にも関わらず概ね横ばいで推移していることから、今後も大きな伸びは見込めない状況といえる。
- 一人あたりの市税収入額を近隣市と比較してみると、市税総額では、約 140 千円/人と 7 都市中 2 番目に高い金額となっている。市税の内訳別にみると、固定資産税は、約 62 千円/人と 7 都市中最も高くなっており、一方、市民税（個人分）は、5 番目となっている。

【人口の伸びと市税収入額】



(資料)京田辺市「平成 25 年度決算特集号」(平成 26 年(2014 年)12 月 15 日号)

【人口と市税収入額】

	人口 (人)	市税総額 (千円)	市税の内訳			
			うち市民税 個人分 (千円)	うち市民税 法人分 (千円)	うち固定資産税 (千円)	うち都市計画税 (千円)
京田辺市	69,607	9,774,437	3,625,236	612,816	4,339,973	801,407
宇治市	189,296	23,318,921	9,936,094	1,277,874	9,201,084	1,653,157
城陽市	78,888	8,583,449	3,707,938	392,549	3,315,692	580,500
八幡市	73,785	9,389,034	3,634,029	666,480	3,626,165	802,282
木津川市	71,194	8,676,374	3,866,429	344,933	3,692,955	367,346
向日市	53,709	7,008,688	2,905,810	322,055	2,892,897	544,865
長岡京市	79,769	11,904,270	4,949,734	762,898	4,833,201	928,287

注：人口は平成 24 年 10 月 1 日現在
(資料) 人口：京都府「市町村別推計人口」(平成 24 年京都府統計書) 税額：総務省「平成 24 年度市町村別決算状況調」

【近隣市との一人あたりの市税収入額比較】

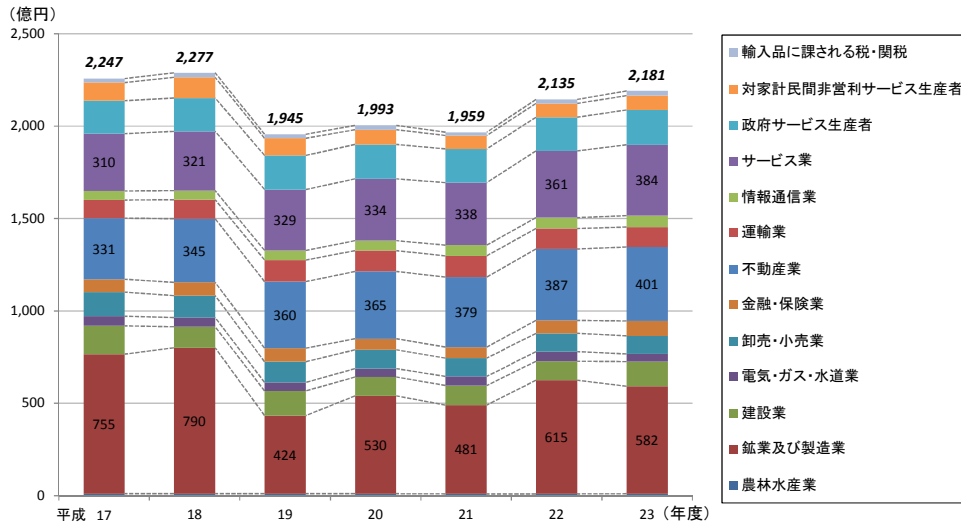
順位	市税総額		市民税個人分		市民税法人分		固定資産税	
	市	(千円/人)	市	(千円/人)	市	(千円/人)		
1	京田辺市	140.4	京田辺市	52.1	京田辺市	8.8	京田辺市	62.3
2	向日市	130.5	向日市	54.1	向日市	6.0	向日市	53.9
3	宇治市	123.2	宇治市	52.5	宇治市	6.8	宇治市	48.6
4	八幡市	127.2	八幡市	49.3	八幡市	5.0	八幡市	49.1
5	木津川市	121.9	木津川市	54.3	木津川市	4.8	木津川市	51.9
6	城陽市	108.8	城陽市	47.0	城陽市	5.0	城陽市	42.0
7	長岡京市	149.2	長岡京市	62.1	長岡京市	9.6	長岡京市	60.6

注：人口は平成 24 年 10 月 1 日現在
(資料) 人口：京都府「市町村別推計人口」(平成 24 年京都府統計書)
税額：総務省「平成 24 年度市町村別決算状況調」

(7) 市内経済の概況

- 京田辺市の市内総生産は、平成 19 年度から平成 21 年度にかけて 2,000 億円を割り込む状況となっていたが、平成 22 年度には 2,000 億円台に回復し、平成 23 年度で 2,181 億円となっている。
- 経済活動別にみると、サービス業、不動産業で生産額が増加する一方で、主要な割合を占める鉱業及び製造業では、伸び悩む状況がみられる。市内総生産に占める割合も低下傾向にあり、全体の伸びを牽引できていない結果となっている。

【市内総生産額の推移(名目値ベース)】

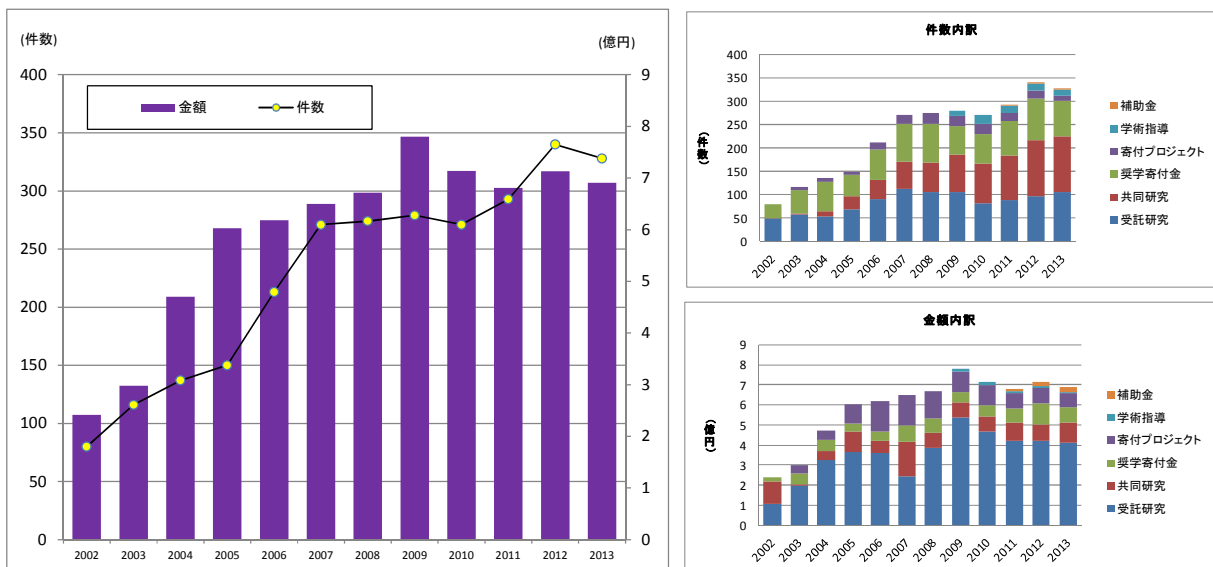


(資料) 京都府「平成 23 年度市町村民経済計算」

(8) 産学連携の概況

- 京田辺市内には、同志社大学及び同志社女子大学両校の京田辺キャンパスが開設されている。
- 両校とも、京田辺市における知的資源、人材育成の拠点となっているとともに、京田辺市とは、地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的として、連携協力に関する協定を締結しており、京田辺市の賑わいづくりや発展に貢献している。
- 同志社大学では、産官学連携の活動も積極的に展開されている。共同研究の件数推移をみると、平成 14 年以降、一貫して増加している。特許実施に伴う収入も増加傾向で推移しており、産業界で活用される成果を生み出している。

【同志社大学の外部資金の獲得実績】

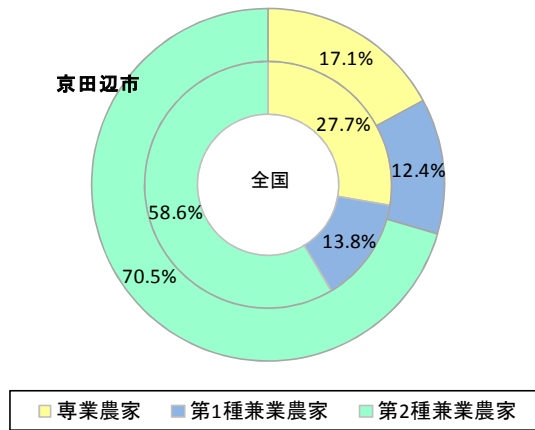


(資料) 同志社大学研究開発推進機構リエゾンオフィス「同志社大学の産官学連携活動」

(9) 農業

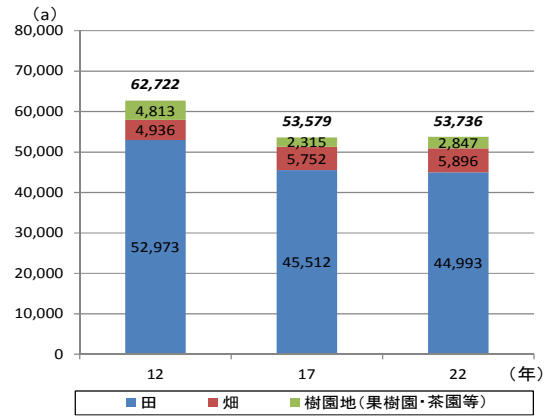
- ・ 農家の専業・兼業の構成比の推移をみると、全国に比べ第2種兼業農家の構成比が高い。
- ・ 平成12年以降での、経営耕地面積の動向をみると、田が減少傾向で推移するなか、畑は増加傾向で推移。樹園地は、平成17年に減少したものの平成22年には増加に転じている。

【専業・兼業の構成比(平成22年)】



(資料) 農林水産省「2010世界農林業センサス」

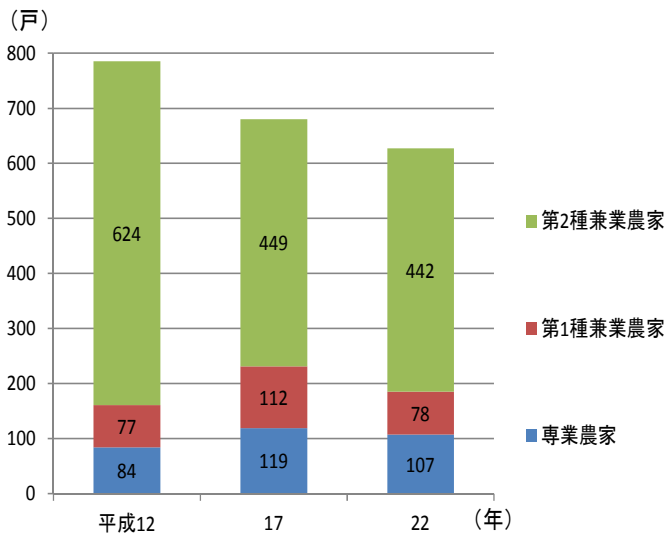
【経営耕地面積の推移】



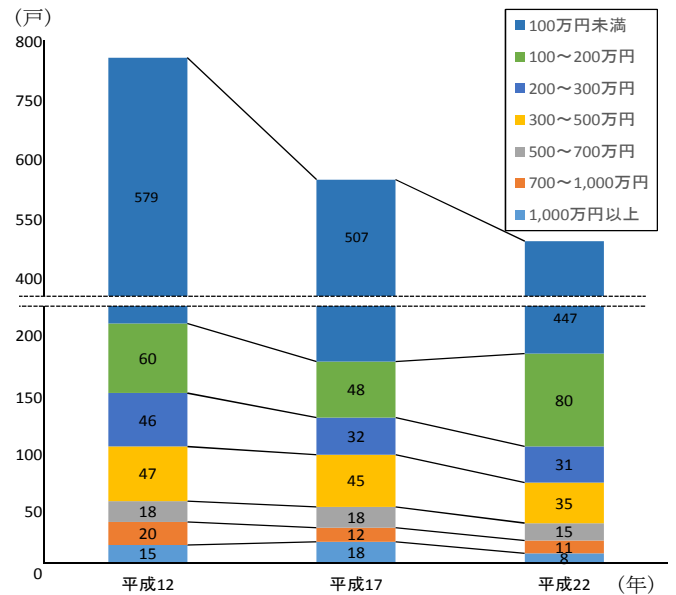
(資料) 農林水産省「農林業センサス・世界農林業センサス」

- ・ 専業農家数・第1種兼業農家数はほぼ横ばい。
- ・ 農産物販売金額の高い農家が減少している。特に700万円以上は半減している。

【専業・兼業別農家数の推移】



【農産物販売金額別農家数】



注：平成12年は経営耕地面積が10a未満、かつ年間販売金額が15万円未満

の農家は対象外。平成17・22年は販売農家（経営耕地面積が30a以上または農産物販売金額が50万円以上の農家）のみ。前ページについても同様。

(資料) 農林水産省「農林業センサス・世界農林業センサス」

- 1 戸あたりの経営耕地面積を周辺市町と比較すると、京田辺市は約 86a となっており、地域の平均より、若干小規模なものとなっていることが分かる。

【1 戸あたりの経営耕地面積比較(平成 22 年)】

	経営耕地面積 総面積(a)	販売農家数 (戸)	1 戸あたりの 面積(a)
京田辺市	53,707	627	85.7
宇治田原町	25,895	233	111.1
久御山町	38,400	364	105.5
八幡市	34,050	335	101.6
宇治市	21,200	214	99.1
城陽市	30,211	345	87.6
木津川市	79,227	937	84.6
井手町	9,379	118	79.5
精華町	23,266	363	64.1
計・平均	315,335	3536	89.2

(資料) 農林水産省「2010 世界農林業センサス」

- 野菜・茶等の販売額をみると、額が大きいものは、田辺ナス、碾茶などとなっている。
- 京田辺市では、京ブランド野菜である「えびいも」や「田辺ナス」を特産品として位置づけている。また、全国茶品評会で農林水産大臣賞を獲得する高級「玉露」の産地であり、「京田辺玉露」のブランド化に注力している。

【野菜・茶等の JA への出荷量】

(単位: kg)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
茄子	755,980	738,772	669,596	696,571	667,079
トマト	145,982	112,060	85,560	99,929	73,144
胡瓜	51,868	40,882	44,573	54,959	64,620
えびいも	47,619	32,635	37,990	32,404	49,521
生食筍	17,672	16,543	12,423	11,342	13,347
JA筍市	3,541	1,427	1,779	999	2,706
原料筍	58,094	56,819	35,580	60,637	52,534
玉露	3,250	2,517	1,909	2,283	1,810
碾茶	8,539	8,889	7,847	10,068	9,748

(資料) 京田辺市資料

【野菜・茶等の JA への出荷額】

(単位: 千円)

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
茄子	180,320	184,619	204,384	167,894	178,954
トマト	39,585	32,193	26,144	30,213	22,141
胡瓜	12,137	13,254	15,838	13,761	22,333
えびいも	23,785	19,348	26,754	24,042	40,474
生食筍	8,773	7,010	6,856	5,820	5,807
JA筍市	765	233	358	108	453
原料筍	6,929	7,167	4,845	7,968	7,753
玉露	60,946	44,058	35,262	46,923	41,855
碾茶	87,438	87,936	75,632	97,452	87,994

(資料) 京田辺市資料

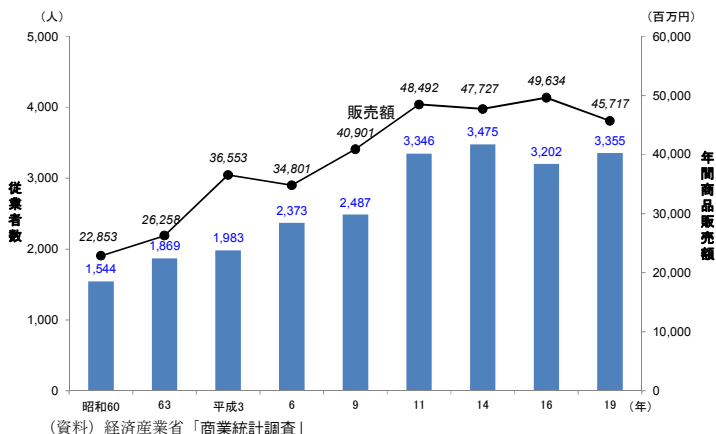
(10) 商業（小売業）

- 小売業の従業者数は、平成 11 年以降横ばい推移。年間商品販売額は、平成 16 年まで増加傾向で推移し、平成 19 年から減少する状況にある。
- 集中度、中心性指数を近隣市町と比較すると、京田辺市は、総じて他市町に比べ低く、市外からの顧客を吸引できていない状況にあり、逆に消費の市外流出も発生している状況と考えられる。

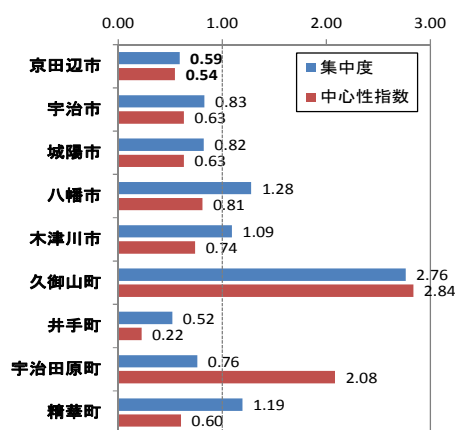
注：集中度：人口当たりの小売業売場面積について、各市の値を府県の平均で割った値。

中心性指数：人口当たりの小売業年間商品販売額について、各市の値を府県の平均で割った値。

【小売業の従業者数、年間商品販売額の推移】



【小売業売場面積の集中度と中心性指数】



【商業集積地区の動向】

	商店街数	商店数	大店舗数	大店舗内事業所数	従業者数 (人)	年間販売額 (百万円)	売場面積 (㎡)
平成14年	7	205	4	30	1,855	24,771	33,533
平成16年	7	182	4	31	1,778	25,362	34,209
平成19年	8	211	4	40	2,304	30,158	48,932
14→19 増減率					24.2%	21.7%	45.9%

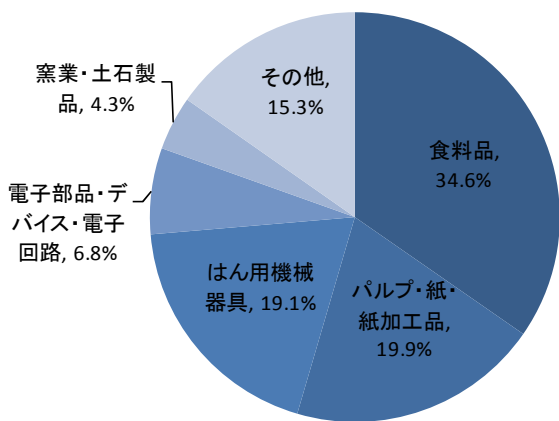
(資料) 経済産業省「商業統計調査」

(資料) 平成 24 年経済センサス-活動調査

(11) 工業（製造業）

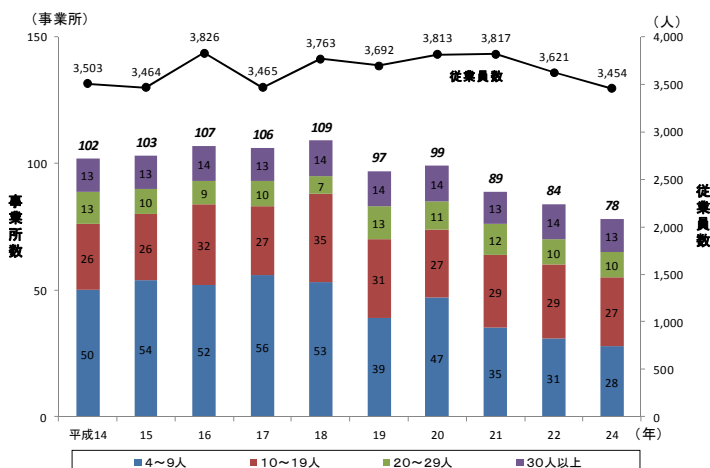
- 主要産業は、「食料品」、「パルプ・紙・紙加工品」、「はん用機械器具」であり、当該 3 業種で、市内製造品出荷額等の 7 割を占める。
- 事業所数は減少傾向で推移しており、特に、従業者規模が 4～9 人の事業所の減少が大きい。

【製造品出荷額等の構成比】



(資料) 経済産業省「工業統計調査」(平成 24 年)

【規模別事業所数・従業者数の推移】



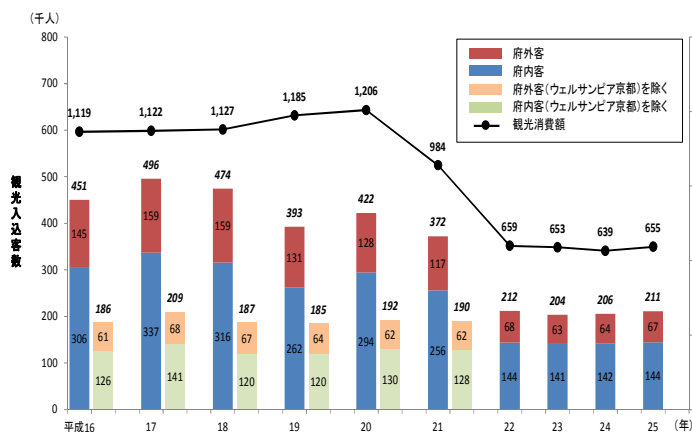
注：各数値は、従業者 4 人以上の事業所の数値。

(資料) 経済産業省「工業統計調査」

(12) 観光

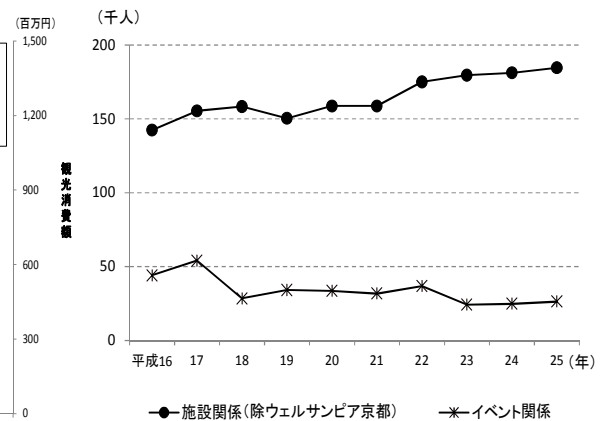
- 京田辺市においては、観光入込客数は、平成 21 年頃までは概ね横ばいで推移し、観光消費額は、平成 20 年までは堅調に推移していたが、宿泊施設（ウェルサンピア京都）の閉鎖等により、平成 21 年に落ち込んだ水準のままで推移する状況となっている。
- 観光入込客数を、施設・イベント別にみると、施設では、ウェルサンピア京都の閉鎖の影響で大きく落ち込む状況となっているが、当該施設を除いて推移をみると、平成 16 年の 14 万人から、平成 25 年には 18 万人を超えるまで増加している。一方、イベントでは、減少傾向で推移し、平成 23 年以降は 3 万人を下回る状況で推移している。
- 観光入込客数が低迷しており、消費額の伸びが他市に比べて低い水準で推移していることから、観光による市経済の活性化を促すためには、観光客の誘客もさることながら消費をしてもらいやすい仕組みづくりが大きな課題となる。

【観光入込客数・観光消費額の推移】



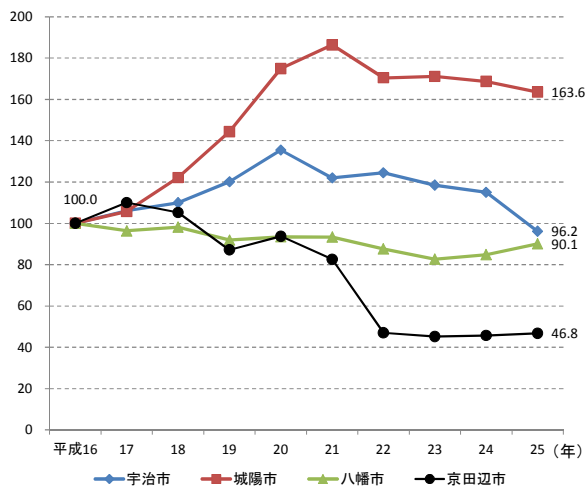
(資料) 京都府「観光入込客数調査」

【観光入込客数の推移(施設・イベント別)】

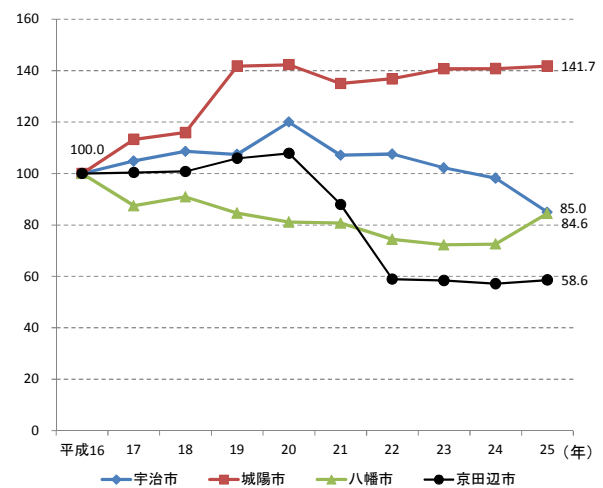


【京田辺市と近隣市の観光入込客数・観光消費額の推移比較(市別:平成16年=100とした場合)】

①観光入込客数



②観光消費額



(資料) 京都府「観光入込客数調査」

【京田辺市の観光入込客数の推移(施設・イベント別)】

①施設

(単位:人)

	平成16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	H16→25 増減率
酬恩庵(一休寺)	33,300	38,210	36,790	37,690	33,280	41,450	36,150	38,341	36,120	35,438	6.4%
田辺カントリー倶楽部	25,150	24,625	27,011	28,105	26,048	23,511	25,958	26,040	25,249	26,650	6.0%
野外活動センター	9,119	12,208	10,898	12,422	13,271	14,906	13,139	12,409	12,210	10,267	12.6%
甘南備山	30,000	28,500	25,000	26,000	25,000	25,800	51,878	56,600	58,500	64,600	115.3%
観音寺	2,921	2,473	3,065	3,945	3,542	4,570	5,746	5,473	7,640	6,061	107.5%
寿宝寺	280	275	273	315	365	425	1,490	1,884	1,816	1,530	446.4%
西八さわか朝市	4,900	4,150	4,150	4,250	11,520	4,260	4,750	4,700	5,050	5,150	5.1%
普賢寺ふれあいの駅	33,932	38,650	45,300	31,460	39,900	39,293	31,650	30,085	30,683	30,840	-9.1%
山本駅朝市	1,200	2,210	1,520	1,500	1,210	1,230	/	/	/	/	-
虚空蔵谷川(桜並木)	1,000	800	1,000	1,200	800	900	900	700	900	800	-20.0%
ぼたん園	568	3,323	3,319	3,462	2,842	1,936	2,556	2,655	2,420	2,755	385.0%
澤井家住宅	-	-	-	-	987	416	762	714	609	510	-
ウェルサンビア京都	264,167	286,362	287,426	208,307	230,069	181,660	/	/	/	/	-
計	406,537	441,786	445,752	358,656	388,834	340,357	174,979	179,601	181,197	184,601	-54.6%
【ウェルサンビア京都を除く計】	142,370	155,424	158,326	150,349	158,765	158,697	174,979	179,601	181,197	184,601	29.7%

注:「-」はデータなし「/」は廃止または休止

(資料) 京都府「観光入込客数調査」

②イベント

(単位:人)

	平成16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	24年	25年	H16→25 増減率
キラフェスティバル	-	15,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	5,000	8,000	5,000	-
産業祭	40,000	35,000	15,000	20,000	20,000	18,000	23,000	15,000	12,000	12,000	-70.0%
大住隼人舞	850	850	950	900	910	915	1,000	800	1,000	1,000	17.6%
一休さんウォーク	1,481	1,386	620	1,169	451	543	890	1,005	1,017	1,284	-13.3%
新春甘南備山初登り	780	796	615	687	687	762	678	680	710	710	-9.0%
二月堂竹送り	100	100	200	200	300	250	250	200	350	300	200.0%
茶まつり	500	450	450	500	450	500	475	1,000	1,000	1,000	100.0%
花見ウォーク	311	429	616	708	697	739	508	492	700	280	-10.0%
観音寺周辺ライトアップ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	900	-
一休バル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3,815	-
計	44,022	54,011	28,451	34,164	33,495	31,709	36,801	24,177	24,777	26,289	-40.3%

注: 観音寺周辺ライトアップ、一休バルは平成25年から開始

(資料) 京都府「観光入込客数調査」

2. アンケート・ヒアリング調査の結果概要

(1) アンケート調査

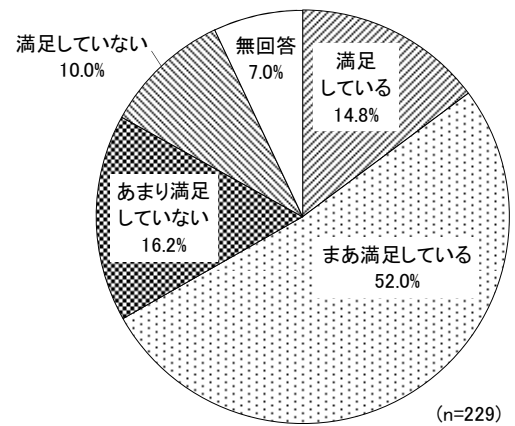
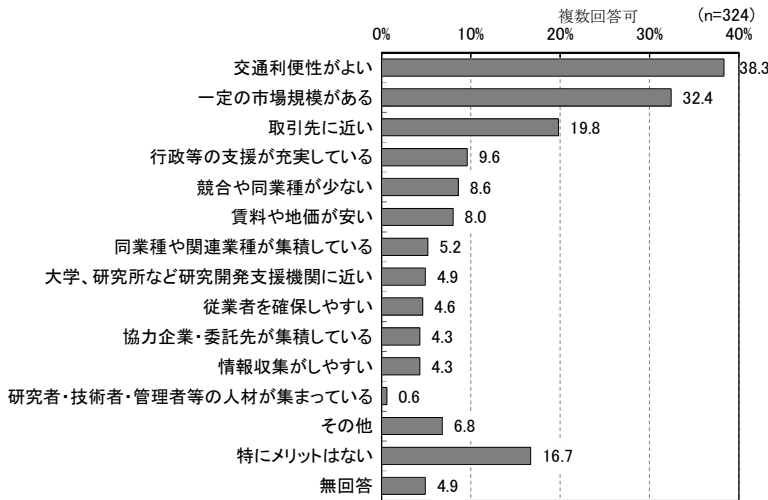
① 事業所アンケート

■ 事業環境上のメリット

- 京田辺市の事業環境上のメリットとして、一番回答比率が高かったのは「交通利便性がよい」。また、「一定の市場規模がある」「取引先に近い」という回答は、小売業やサービス業等を中心に多かった。
- 京田辺市の産業振興の取組については、「満足している」「まあ満足している」の合計が6割を超えており、特に製造業は「満足している」が3割を超えるなど、全体的に満足度が高かった。

【京田辺市の事業環境上のメリット】

【市役所の産業振興の取組の満足度】

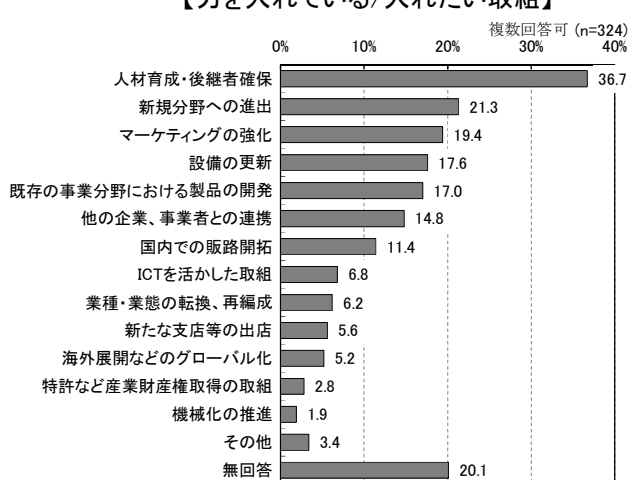
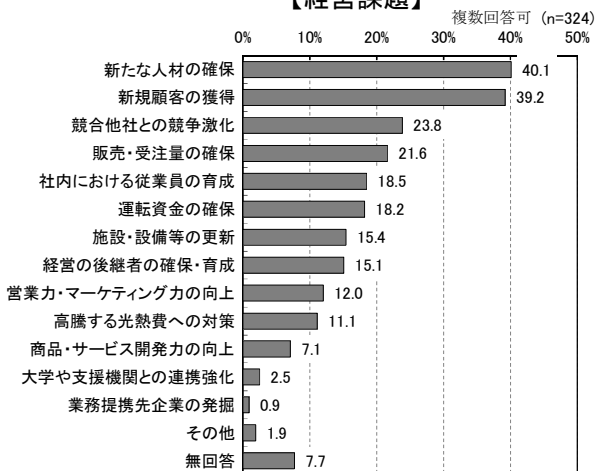


■ 経営課題、現在力を入れている・今後力を入れたい取組

- 現在の経営課題については「新たな人材の確保」「新規顧客の獲得」が多く、力を入れている、今後力を入れたい取組については「人材育成・後継者確保」「新規分野への進出」「マーケティングの強化」などが多い。
- 市内企業の人材の確保・育成や市場の獲得・拡大に対する関心の高さがうかがえる。

【経営課題】

【力を入れている/入れたい取組】

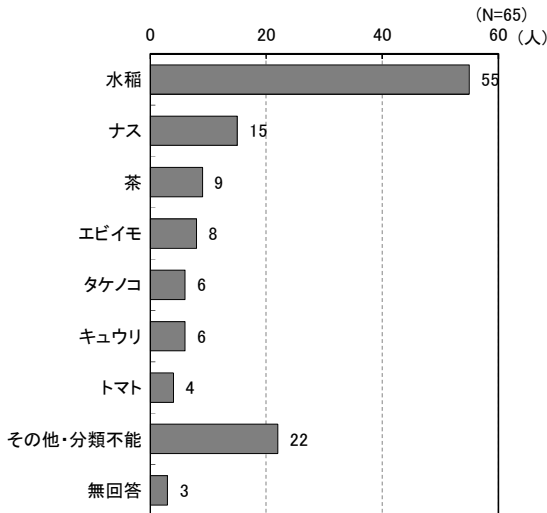


② 農業者アンケート

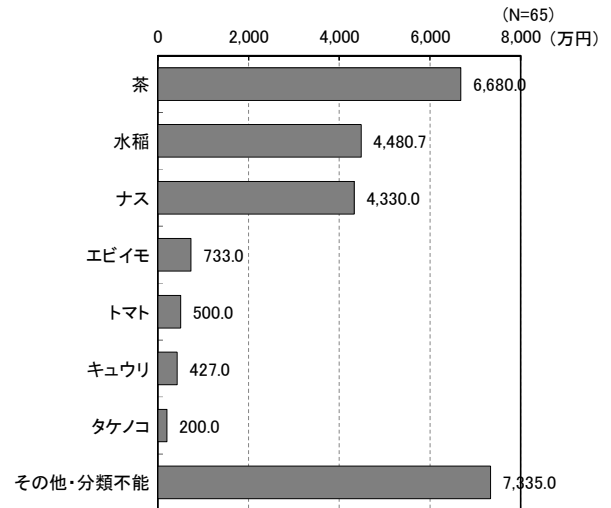
■ 作っている作物とその出荷額

- ・ 作っている作物については、水稲が最も多く、次いでナス、茶、エビイモの順となっている。
- ・ 出荷額が明記されていた回答を作物別に集計すると、茶が最も多く、次いで水稲、ナスの順になっている。水稲は作っている件数の割に出荷額が小さく、農家あたりの出荷額が小さいことがうかがえる。逆に、茶やナスは、農家あたりの出荷額が大きいことがわかる。

【作っている作物(農家件数 複数回答)】



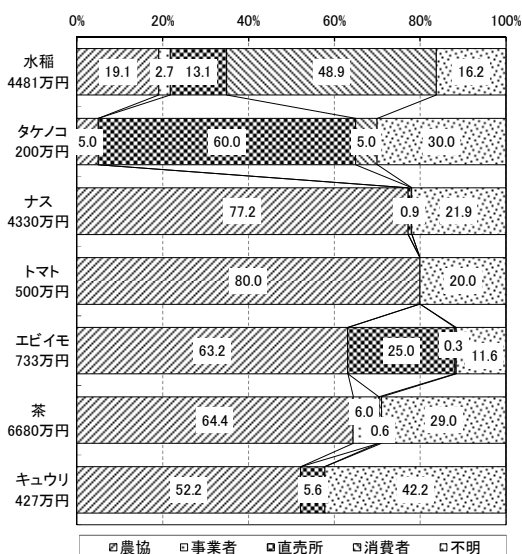
【作物別販売額(合計)】



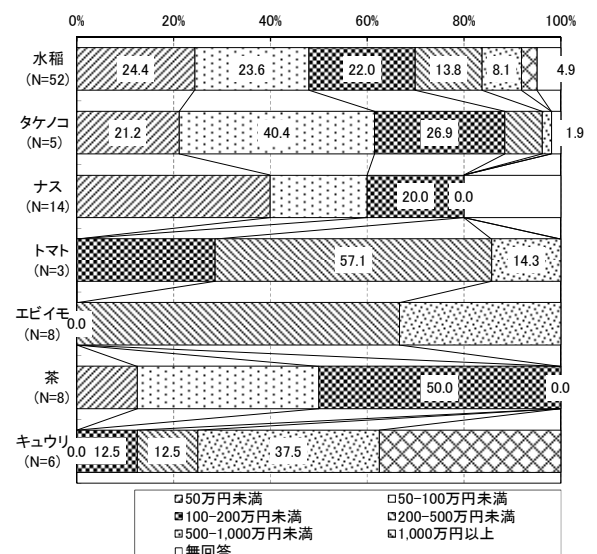
■ 販売先・出荷額

- ・ 販売先を、作物ごとの出荷額を見ると、農協に出荷している比率が最も高いのはトマトであり、次いでナス、茶の順となっている。出荷額の小さいタケノコは農協への出荷額の比率はわずかであり、直売所の額の比率が高い。水稲は直接消費者に販売している額の比率が高い。
- ・ 全体的に、事業者（レストラン・スーパー等）へ直販している額の比率は低いが、その中で相対的には茶が6%と高くなっている。
- ・ 作物別に農家ごとの出荷額を見ると、1,000万円以上の売上が立っているのは茶のみであり、水稲は作っている農家の6割が100万円未満の出荷額となっている。
- ・ ナスについては、取り扱っているいずれの農家も100万円以上、トマトについては200万円以上の出荷額がある。

【販売先別出荷額の構成比】



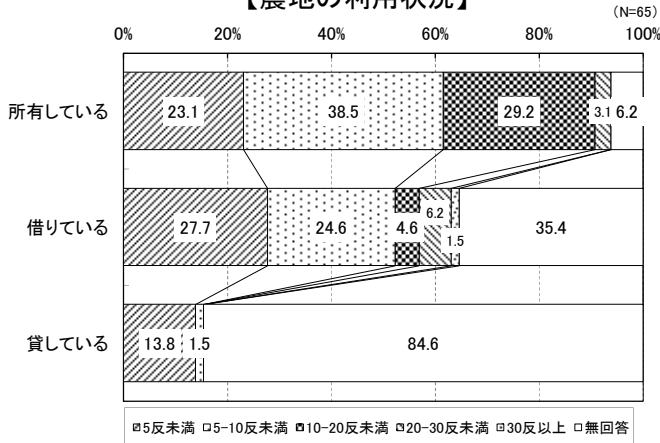
【作物別出荷額】



■農地の利用状況

- 農地の面積について、所有している農地は「5～10 反未満」という農家が最も多く、次いで「10～20 反未満」「5 反未満」の順となっている。農家あたり平均では7反9畝所有していることになる。
- 耕作面積と出荷額が比例していることがうかがえる。出荷額の規模別に見ると、出荷額が多いほど耕作している農地の面積が大きくなる。
- 回答者の6割以上が「借りている」面積の値を記入しており、一定規模の農地を借りて耕作している人が少なからずいることがうかがえる。

【農地の利用状況】



【販売規模別の耕作面積】

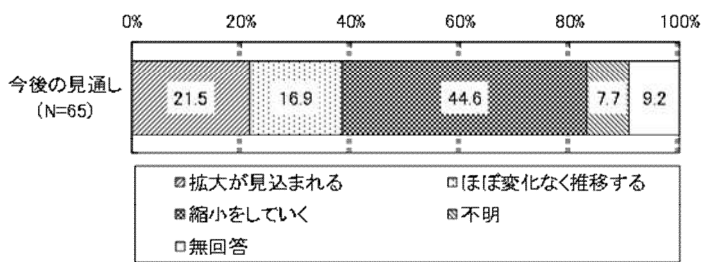
(農家あたり平均、単位：反)

調査数	5反未満	5-10反未満	10-20反未満	20-30反未満	30反以上	無回答	
全体	65	4.6	20.0	21.5	6.2	1.5	46.2
100万円未満	20	15.0	30.0	15.0	0.0	0.0	40.0
100-500万円未満	23	0.0	17.4	21.7	4.3	0.0	56.5
500万円以上	16	0.0	12.5	31.3	18.8	6.3	31.3

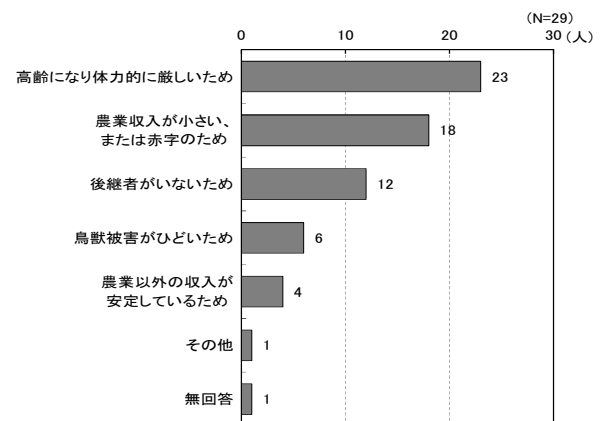
■今後の見通し

- 今後の見通しについては、「縮小をしていく」という回答が最も多く、4割以上を占める。「拡大が見込まれる」という回答は2割強となっている。
- 拡大の要因として最も多く挙げたのが「まわりで耕作できない人が増え、それらの田畑での耕作を手がける見込みのため」というものであり、逆に縮小の要因として
- 最も多く挙げたのが「高齢になり体力的に厳しいため」というものであった。
- 出荷額の規模別に見ると、500万円以上の農家では「拡大が見込まれる」という回答の比率が特に高く、100万円未満の農家では「縮小をしていく」という比率が特に高い。
- 地域別に見ると、三山木、普賢寺において、「縮小をしていく」という比率が特に高い。

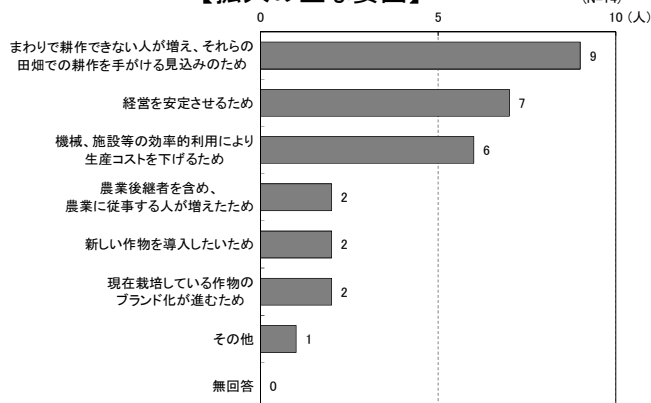
【今後の見通し】



【縮小の主な要因】



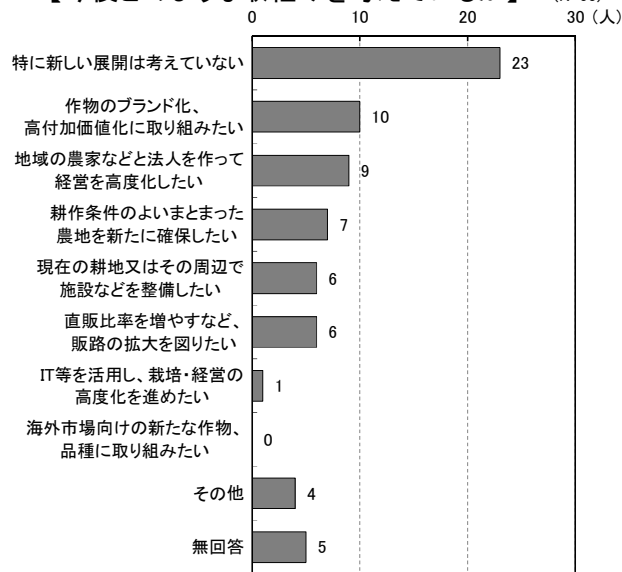
【拡大の主な要因】



■今後の取組

- ・ 特に「新しい展開は考えていない」という回答が最も多い。
- ・ 考えられている取組で多く挙げたのは、「作物のブランド化・高付加価値化」、「経営の高度化」、「まとまった農地の確保」などであった。
- ・ 出荷額の規模別に見ると、100万円未満の農家では「特に新しい展開は考えていない」という回答の比率が特に高く、500万円以上の農家においては「耕作条件のよいまとまった農地を新たに確保したい」「現在の耕地又はその周辺で施設などを整備したい」といった取組を考えている農家が多い。また、100万円未満の農家で「地域の農家などと法人を作って経営を高度化したい」という回答があり、小規模な農家であっても集団化による経営の効率化を求めていることがうかがえる。
- ・ 先の回答結果とも合わせて考えると、「縮小したい」と考えている農家の土地を、一定の出荷額のある農家に集約して高度化を進めていく取組が求められていることがうかがえる。

【今後どのような取組を考えているか】 (N=65)



③市民アンケート

■京田辺市民の買い物動向

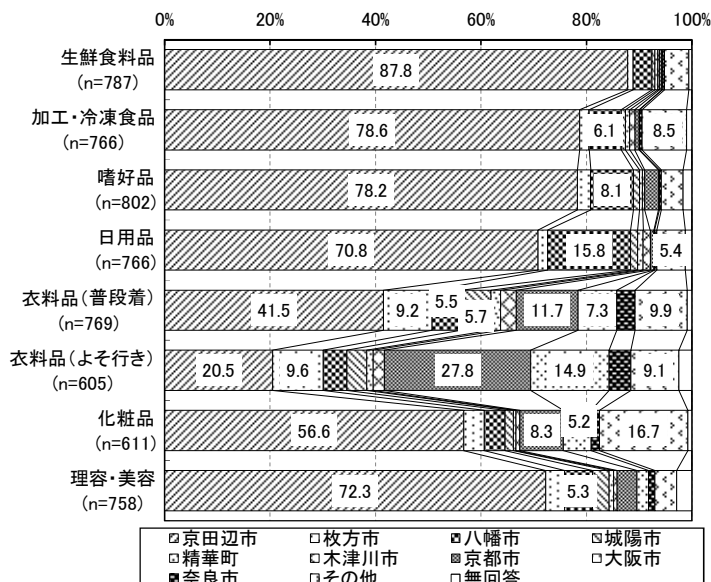
○買い物先

- ・ 衣料品を除けば京田辺市で買い物をしている比率が50%を超えている。
- ・ 最も市内での買い物比率が高いのは生鮮食料品で9割近く。最も低いのは衣料品（よそ行き）などの比較的高価な品目で、京都市、大阪市、枚方市等に流出。

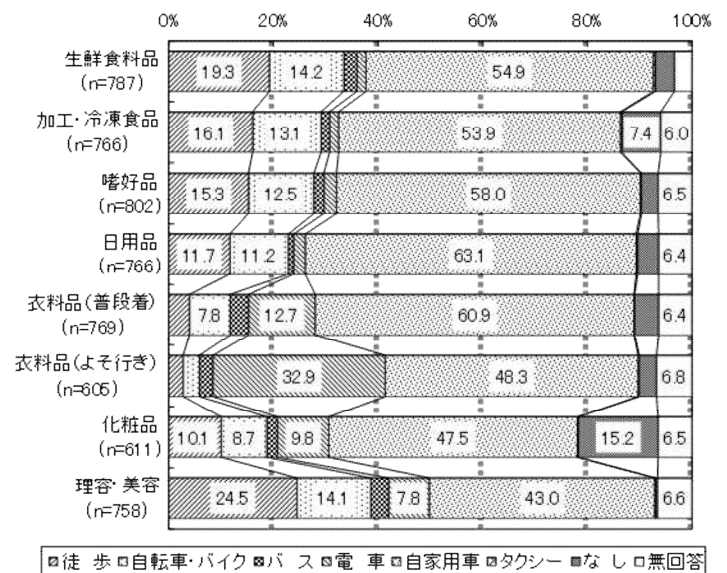
○交通手段

- ・ 買い物先への交通手段は自家用車が中心。市内利用が多い生鮮食料品や理容・美容などであっても、自家用車の利用率が4割、5割と高い。
- ・ 京都市や大阪市に流出している衣料品（よそ行き）は電車の利用率が高い。

【品目別に見た一番よく行く買い物先】



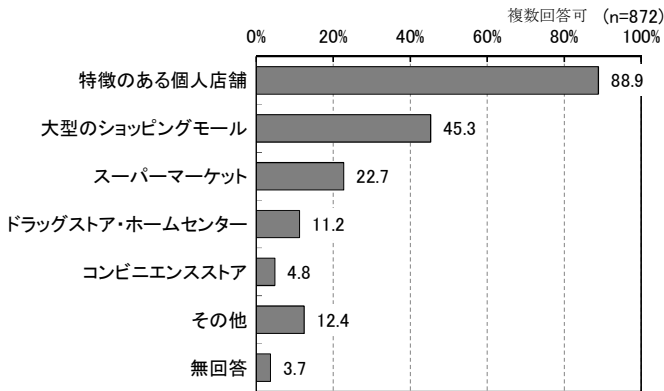
【一番よく行く買い物先への交通手段】



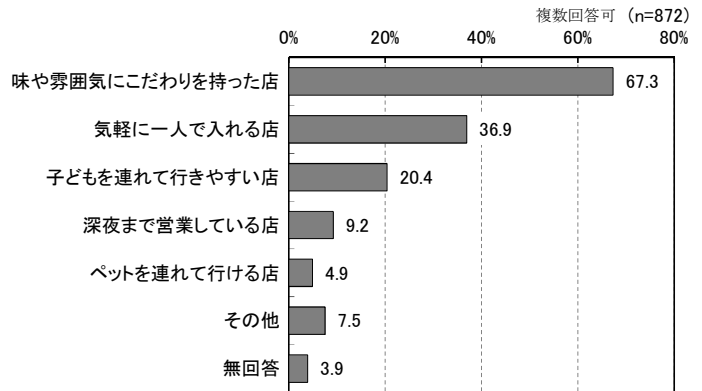
■京田辺市に欲しい店

- ・京田辺市に増えて欲しい店舗として、圧倒的に多く挙がっているのが「特徴のある個人店舗」次いで「大型のショッピングモール」「スーパーマーケット」の順。
- ・京田辺市に増えて欲しい飲食店として最も多く挙がっているのは「味や雰囲気こだわりの店」であり、大きく差が開いて「気軽に一人で入れる店」「子どもを連れて行きやすい店」が続く。
- ・一般の店舗、飲食店ともに、その店独自の個性や雰囲気を感じさせる店が増えることを望んでいる市民が多いことがうかがえる。

【京田辺市に増えて欲しい店舗】



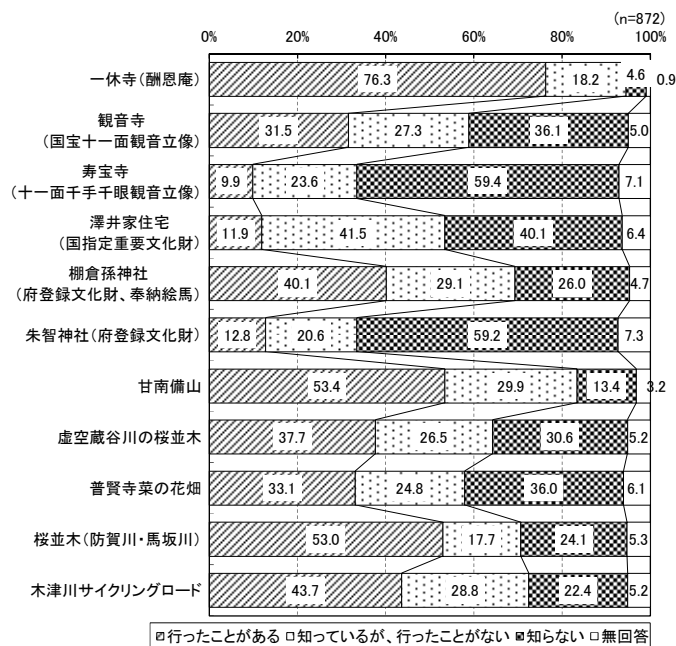
【京田辺市に増えて欲しい飲食店】



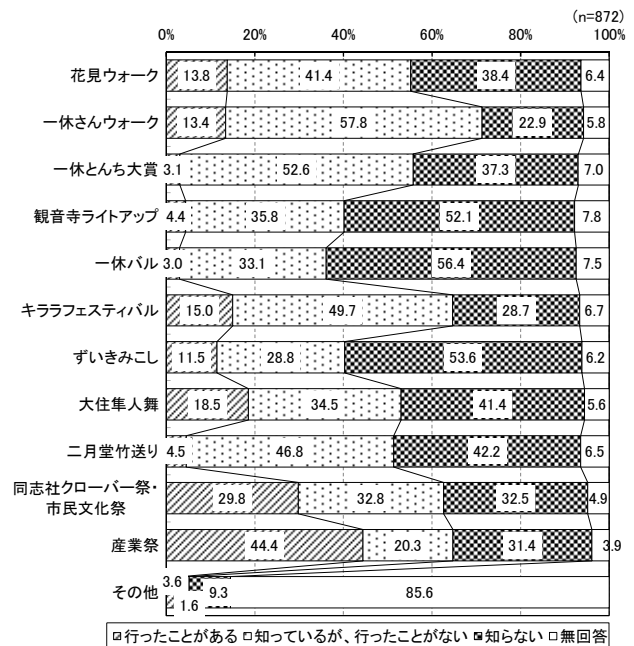
■京田辺市民の市内観光地等の認知度

- ・市民が最も訪れた経験が多い観光地は一休寺。行ったことがない人を含め、ほとんどの市民が知っている。次いで甘南備山、桜並木（防賀川・馬坂川）の順だが、他の観光地等については、国宝や重要文化財であっても、市民に知られていない。
- ・イベントで最も来訪経験が多いのは「産業祭」で参加経験が4割を超える。「一休さんウォーク」「一休とんち大賞」「キララフェスティバル」など認知度は一定数あるが、参加されていないイベントもある。

【京田辺市内の観光地・イベント等の認知度・参加経験】
《観光地等》



《イベント等》

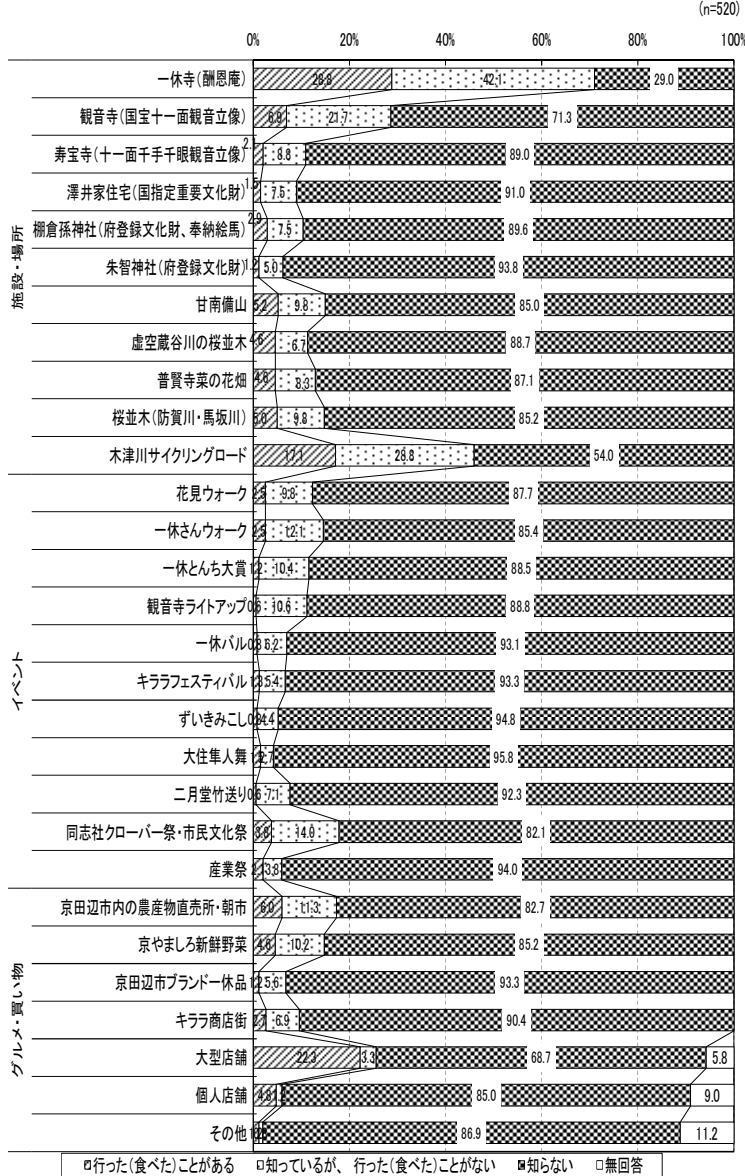


④近隣市町在住者インターネットアンケート

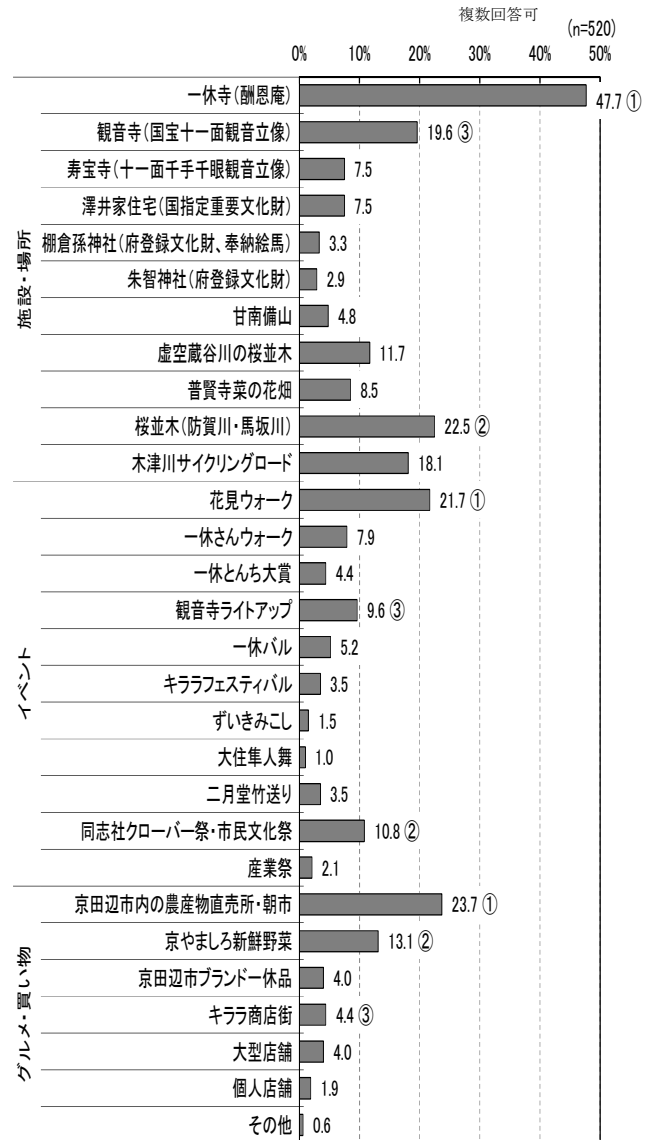
■京田辺市の観光地等の認知度

- ・一休寺は京田辺市民だけでなく、周辺市町の住民にも一定の認知度がある。他の施設については認知度も来訪経験も低い。
- ・今後の来訪意向については、一休寺の他、農産物直売所・朝市等についても来訪意向が高く、直売所の場所やイベント等の認知度を高めれば、市内だけでなく周辺市町からも一定の集客が見込める可能性がある。

【京田辺市内の施設・イベント等の認知度・来訪経験】



【京田辺市内の施設・イベント等の訪問・参加意向】



(2) ヒアリング調査等での主な意見（抜粋）※農業分野は京カ農場プランアンケート自由意見を含む

農業分野

- 田と耕作したい人のマッチングをすべき。
 - 京田辺の農を語る場が必要。
 - 高収入で安定持続の確保が保証されれば、農業従事者は増える。
 - 家族での農業経営は限界。
 - 親が農業できなくなり、突然農地を継承させられる（中高年の）土地所有者の存在。
 - 人に貸していて、自分で耕作していない人も少なくない。
 - 大型地権者との調整強化を。
 - 農業機械が高く、壊れた時が農業を辞めるときになる。
 - 高齢化が進むと集荷場への配送等も辛くなる。
- 新規就農者を確保するには、保証や資金面での行政支援も必要。
- 6次産業化に取り組みたいと考えるが、商品の売り込みが課題。特産品などをもっと知ってもらう機会をつくる必要がある。

商業分野

- 各地域の商業地に対する市のビジョンが見えない。
- 事業承継に関心がある。スムーズに後継者が新しい取り組みなどできるような支援が欲しい。
- 若い人、やる気のある人は、大阪、京都を選ぶ。確保が難しい。
- ホテルの誘致は必要不可欠。京田辺市のお店で消費してもらおうような方向性を。
- 大学移転に伴う空きマンション等のホテルとしての利用などは考えられないか。
- 飲み会は近隣にお店が少ないので、新田辺周辺で行うが、お店の選択肢が少ない。
- 住みやすい都市として評価されている。キララ商店街はイベントをすれば人は寄ってくる。知恵を出せば、まだ人が戻ってくるのではないか。
- 下宿が多い三山木にもお店がない。外食する場所がない。
- 宅配も含めた販路の拡大。買い物難民の所へ持って行きたい。
- ユニークな企業や商店の存在の強みとまだまだそれらが掘り起こし出来ていない、生かされていない弱み。

工業分野

- 京田辺市は人材確保が困難（特にパート・アルバイト）。
- 市内の企業同士がやっていること、持っている設備などを互いに知り合う機会が必要。
- 物流上の利便性は高い（京奈和・第二京阪等）が市内の公共交通が脆弱。バスの本数が少ない。
- 通勤が非常に不便（新田辺駅に遠い）。朝・夕ともここ数年渋滞が酷くなる一方。京奈和 IC 出たあたりから渋滞している。
- 路線バスの路線（工業団地行き等）本数が増えると助かる。
- 研修や出張などで京田辺市に従業員が集まることが多く、宿泊施設が欲しい。
- 調達先を市内で探しているがなかなかいない（加工メーカーや町工場が少ないので、誘致してほしい）。
- もっと駅前に出やすくなれば、従業員の飲み会や食事、買い物など地域での活動が活発になる。
- 地域の防災情報を市からもっと発信してほしい。
- 宿泊施設がほしい。（出張や来客が多数あり、現在は京都・大阪に泊まって貰っている。）
- 自にインキュベーション施設を有する強みと、育成後の用地確保（ポストインキュベーション）ができていない弱み。

観光分野

- 観光名所の標識等が未整備。
- 市民に市内の観光地を知ってもらい、関わってもらう必要がある。
- 観光情報のプロモーションを上手にしてほしい（まちのブランド向上）。
- 土産を購入する場所、食事をする場所、一休品を購入する場所がない。
- 強力な観光資源がない現状、恋活、観光農園など、集客・誘客に向けた仕掛けをもっと展開すべき。
- 市、商工会、観光協会等の連携を促進するようなコーディネーションが機能していない。
- 観音寺単独では難しいので木津川市と連携して南山城として売っていく。
- 泊まったり宴会ができるような場所がなくなった。全国ハンドボール大会の時も、別の街に泊まっている。
- 同志社と連携し、外国語版パンフレットを作ってはどうか。
- 何と云ってもお茶・玉露のまち。今後は農商工連携を進め、組織の壁を越えて進めるべき。